高等教育開発　第●号　20○○年

【論文／報告／その他】

『高等教育開発』原稿テンプレート

Educational Development Studies

執筆者名　　・　　執筆者名＊

（所属機関名）　　（所属機関名　非会員）

Sippitsushamei　　・　　Sippitsushamei\*

（Shozokukikanmei）　　　　（Shozokukikannmei）

ここには本文の要約（抄録）を書いてください。和文で300～400文字程度でお願いします。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

［キーワード：５つ程度書いてください。〇〇、〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇］

1. タイトルページ

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(1) タイトル部分

タイトル部分は、横1段組（投稿先号数、発行予定年、投稿種別、和文題目、英文題目、執筆者、所属、会員種別、執筆者英名、所属英名、抄録、キーワード）としてください。執筆者が複数の場合、執筆代表者を連名者の筆頭に置いてください。所属は執筆者名の下に9ポイントで示してください。また執筆者が非会員の場合は、氏名の右肩に＊をつけ、所属の横に非会員と明記してください。正会員は記載の必要がありません。

(2) 本文部分

本文部分から横2段組になります。

本文は、句読点を使用します。フォントは、日本語はMS明朝、英数字はCentury（半角）を使用します。文字サイズは、10.5ポイントを使用します。

本誌は、タイトル部分を除き、本文部分から2段組とします。

2. 見出しの書式

　見出しは、章、節、項の3段階までとします。見出しはすべてゴシック体を用います。

(1) 章の見出し

章の見出しは、すべて左寄せとします。見出しには、アラビア数字（半角）で番号を付けます。参考文献に番号は付けません。

(2) 節の見出し

節の見出しには、半角の両括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます。

(3) 項の見出し

　できるだけ見出しは、章と節の2段階にしますが、必要な場合は、項の見出しとして、1)など半括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます。

3. 注、参考文献および謝辞

注、参考文献および謝辞は、本文の後に一括します。

本文中での参考文献の指示は、著者名・刊行年次を小括弧に入れて示します。たとえば、「…（中井、2015；沖他、2019）」、「井上（2016）は…」など。外国人名は原語で表記します。

(1) 注

注は必要最小限にとどめるものとしますが、注を付す場合、本文の該当箇所に上付きで番号を付け、参考文献の前にまとめて記載します。

(2) 参考文献

参考文献は著者名のアルファベット順とし、番号は付けません。

(3) 謝辞

謝辞は論文の最後に記載します。

4. 図および表

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。本文とは別に鮮明な原稿を作成し、本文中にその挿入箇所を指示しておきます。

図表の幅は、1段または2段のいずれかとし、両脇に余白が生じても文字を入れないようにします。

なお本文中に、図表を縮小表示して挿入してもかまいません。その際にも、図表だけの原稿とファイルは提出してください。

図および表には、通し番号を付し、表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に記します。なお、図および表が1つの場合にも、図1または表1と記します。

図表と文章本体との間には1行の空白を設けて区別を明確にします。

5. 文章表現

和文は、常用漢字、現代仮名遣いを用います。

数字は、熟語・成語に含まれるもの以外は、アラビア数字（半角）を用います。

略語は、一般的に用いられているものに限ります。まぎらわしい略語には、初出の際に原語と日本語の訳語を小括弧で示してください。

参考文献

＜単行本の場合＞

中井俊樹編 (2015)『アクティブラーニング（シリーズ大学の教授法3）』玉川大学出版部.

（順番に、著者名、発行年、書名(二重カギ括弧)、発行所）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. Jossey-Bass.

（順番に、著者名、発行年、書名(イタリック体)、発行所(発行地)）

＜単行本の特定の章の場合＞

井上史子 (2016)「カリキュラム改革のための組織体制はどうあるべきか」日本高等教育開発協会・ベネッセ教育総合研究所編『大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン』ナカニシヤ出版,57-64.

（順番に、章の著者名、発行年、章の題目(一重カギ括弧)、収録されている単行本の編者名、書名(二重カギ括弧)、発行所、掲載ページ）

Entwistle, N., McCune, V., & Walker, P. (2010). Conceptions, styles, and approaches within higher education: Analytic abstractions and everyday experience. In R. J. Sternberg, & L. F. Zhang (Eds.), *Perspectives on thinking, learning, and cognitive styles,* Routledge, 103-136.

（順番に、章の著者名、発行年、章の題目、収録されている単行本の編者名、書名(イタリック体)、掲載ページ、発行所(発行地)）

＜雑誌論文の場合＞

沖裕貴・高比良美詠子・杉井俊夫・西川鉱治 (2019)「授業評価アンケート結果から見るFD研修の効果」『大学教育学会誌』40(2),36-45.

（順番に、著者名、発行年、論文題目(一重カギ括弧)、雑誌名(二重カギ括弧)、巻(号)数、掲載ページ(ppは不要).なお、複数の和文著者名は「・」でつなぐ）

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, 27(6), 12-25.

（順番に、著者名、発行年、論文題目、雑誌名(イタリック体)、巻(号)数(巻数はイタリック体)、掲載ページ(ppは不要)）

＜翻訳書の場合＞

Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design (Expanded 2nd ed.)*. Association for Supervision and Curriculum Development. G・ウィギンズ，J・マクタイ (西岡加名恵訳) (2012)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法－』日本標準.

（順番に，原著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所，原著者名(カナ名)，訳者名，翻訳書発行年，翻訳書名，翻訳書の発行所）

＜インターネットからの引用の場合＞

中央教育審議会 (2020)『教学マネジメント指針』

(https://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360\_00001.html) (2020年3月31日)

（順番に、著者名、ページのタイトル、URL、引用者の最新アクセス日）